

# 市民とつくる公園庁舎

私たちはこれまで、各務原市が持つ歴史・文化の継承、豊かな自然に包まれた公園都市、市民のニーズに応えるための**公共施設設計に数多く携わってきました**。その実績と経験を活かし、市民目線で質の高い支援とサービスを提供する公園都市に相応しい新庁舎を提案します。

今回、各務原市の**3つの基本理念「誇り」「やさしさ」「活力」**につながる**新庁舎づくり**のキーワードのもとに、市民の元気を市内外に発信できる庁舎づくりを進めます。

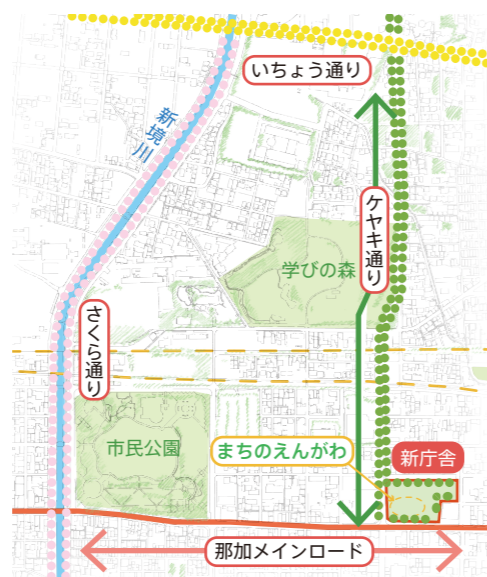


<各務原市での弊社実績>

## 1. 地域特性を活かす考え方について

### 01. 地域と庁舎をつなぐ外構計画

敷地はイチョウ通りから学びの森を経て、那加メインロードへ至るケヤキ通りに面した位置にあります。ケヤキ並木を敷地内のパブリックスペースに引き込み、緑溢れる潤いと賑わいのある**公園の様な共用空間を持つ新庁舎**を提案します。



**交流 まちのえんがわ**

敷地内のパブリックスペースは、市民が気軽に集い、ふれあう交流場所として**「まちのえんがわ」**を提案します。庁舎に用事がない人も集い語り合えるえんがわが市民の笑顔や元気を生み出す憩いの場となります。

**学び さくらまちのさくら**

現庁舎敷地内にある桜を保存し、新庁舎建設を記念して、地域のボランティア協力のもと新たに桜を植樹します。これからの庁舎と桜は市民の手により育てられ、愛されていくよう外構計画を提案します。

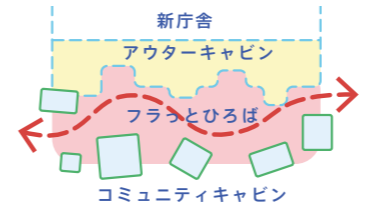


## 02. 地域活動と共用部デザイン

各地区のコミュニティによる地域活動を他の地域にも発信する市民交流の場として、開放された外部に広がる**「フラットひろば」**と、庁舎とひろばをつなぐ**「アウターキャビン」**を提案します。

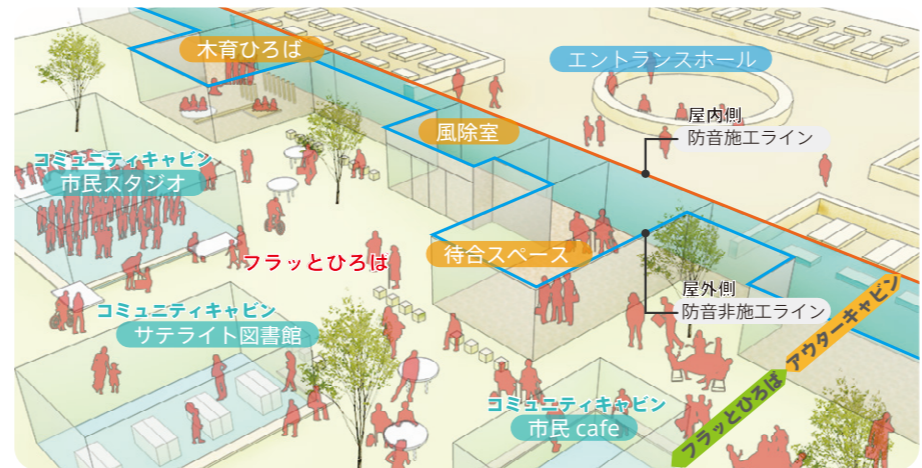
### フラットひろば

フラットひろばは市民交流スペースと位置付け、地域ギャラリーや活動スペースをつくるための**「コミュニティキャビン」**をレイアウトします。



### アウターキャビン

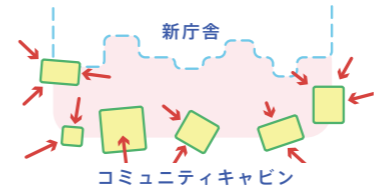
**「アウターキャビン」**は庁舎とひろばをつなぐ市民開放スペースである一方、庁舎機能と明確なセキュリティーラインを設けられるよう配置します。



### コミュニティキャビン

フラットひろばには、市民が訪れたいくなるような地域ギャラリーや活動スペースとして誰でも利用できる**「コミュニティキャビン」**を設けます。

それぞれが市民スタジオやカフェ、サテライト図書館等に利用できる他、市民ワークショップにてコミュニティキャビンの使い方を話し合うなど様々な使い方に対応できます。そこでの活動が見えることでフラット広場全体に活気を与えます。



<コミュニティキャビンの一例>

**学び サテライト図書館**

本をさらに身近に感じてもらえる図書スペースを提案します。おすすめの本や市内図書館のイベント情報の発信の場とします。

**交流 市民スタジオ**

市民スタジオや地域ギャラリーでは、市民カメラマンなどの作品を発表したり、市民団体の活動、市民団体同士の情報交換の場として利用することができます。

**交流 市民 cafe**

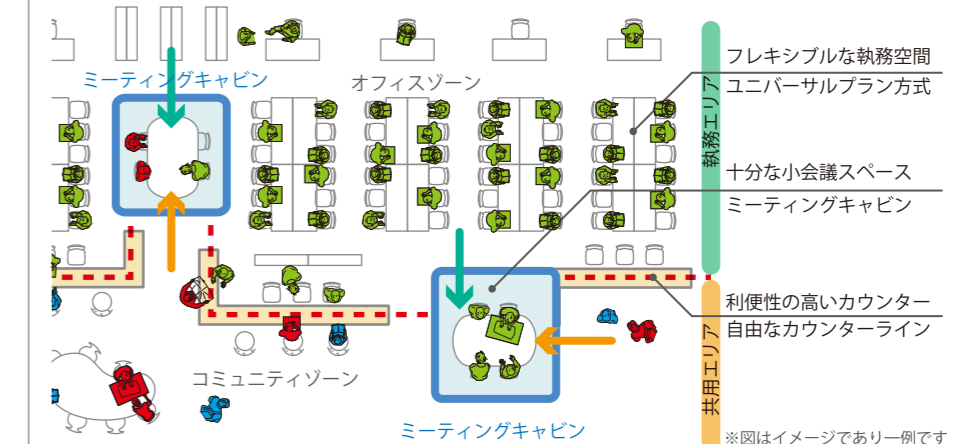
フラットひろばの賑わいを感じながらつろげる憩いの場所を提案します。各務原キムチなどの販売も行えるアンテナショップとして特産品 PR の場所にもなります。

**安心安全 木育ひろば**

キッズコーナーは岐阜県のすすめる木育ひろばとして岐阜県の木を使ったおもちゃを設置します。ひろばでは岐阜県が提案する親子の木育イベントを行うことができます。

## II. 地元企業ならではの独自提案

### 01. 執務空間のシミュレーション



#### 十分な小会議スペース

現庁舎には小スペースの打合せ場所が少ないのが現状です。そこで来庁者との打合せや連携する課との打合せに会議室を予約することなく、席の近くで気軽に打合せができる**「ミーティングキャビン」**を設けます。

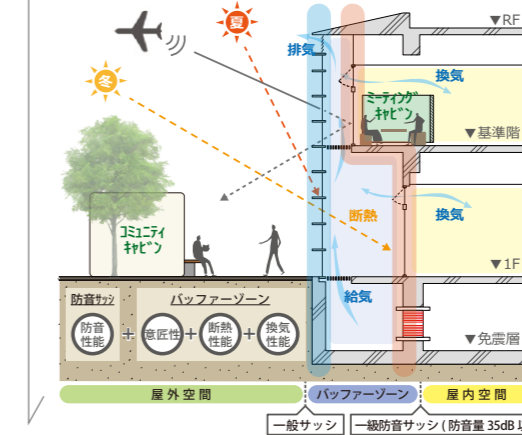
#### フレキシブルな執務空間

ユニバーサルプランにより異動時には人のみが動くことでデスクの増加・並べ替えなどにコストと時間をかけずに対応することができます。

#### 利便性の高いカウンター

各課の特性に合わせた窓口カウンターを設けます。

### 02. 防音工事と建築手法



新庁舎は、自衛隊航空機の騒音対策として防音サッシに加え、一部の**共用部をバッファゾーン**とすることで防音効果をさらに高める手法を提案します。

執務空間に近い内部は防音サッシにより防音性能を発揮し、共用部の外部に面した部分に一般サッシを併用することで防音サッシの断熱性能を補いながら利用汎用性の高いバッファ空間を生み出します。

### 03. その他の工夫・配慮

地域の材料、地域で流通している材料をリサーチし、積極的に庁舎づくりに活用することで地域材の需要を増やし、流通材の活用によって建設コストコントロールを行います。

**交流 市民による公園づくり**

公園のような共用空間をつくるために、市民による植樹や花の苗植えが行える花壇を計画します。市民の緑化に対する関心を高め、潤いのある美しい庁舎を維持していくよう植栽計画を提案します。

**安心安全 防災拠点機能**

コミュニティキャビンは、災害時にトリアージの優先度順に空間分けを明確にすることができます。またボランティアの拠点として支援物資の受け入れや仮眠設備等の救援活動場所として機能します。